

(表1) 土地利用計画表 単位ha

	地								計	改良 草地	牧野 原野	山林	宅地・ その他	計
	耕		園				計							
	水田	普通畑	果樹園	桑園	茶園	その他								
昭40(A)	15,192	13,036	498	888	101	81	1,564	29,792	2,324	50,596	92,207	30,039	204,958	
昭60(B)	16,000	13,000	1,300	5,700	1,500	0	8,500	37,500	19,500	21,900	97,400	28,658	204,958	
(B)-(A)	808	△36	806	4,812	1,399	△81	6,936	7,708	17,176	28,696	5,193	1,381	0	

(表2) 専業経営の規模と目標生産力水準(昭60)

	目標生産力水準	生産規模
水稲作経営	500kg/10a	水田5~6ha
酪農経営	生草7t/10a 牛乳5t/1泌乳期	改良草地15~20ha 経産牛25~30頭
肉牛生産経営	生草7t/10a 利用率80~85%	改良草地40~50ha(1部 自然草地混牧林を考慮) 繁殖牝牛80~90頭
養蚕経営	100kg/10a	桑園4.5~5.0ha 年間飼育箱数160~190箱
茶園経営	生葉2t/10a	茶園4.0~5.0ha
栗園経営	栗400kg/10a	栗園5.5~6.5ha
野菜経営	ハクサイ、キャベツ 5t/10a	作付面積4.0~5.0ha

基礎調査を昨年から行なっていたが、県の強い要望と地元の入入れ体制の整備により、本来二年間の基礎調査を要する本事業を、異例のスピード着工で本年の十月から工事を開始し昭和四十六年度に完了する予定である。この牧場は、西原村高畑山のふもとに総事業費約四億円で建設するがその規模は敷地五〇〇ヘクタール、収容頭数一、一〇〇頭となり、日本一大きい乳用牛及び肉用牛の公共育成牧場となるはずである。このような牧場の建設計画が蘇陽町においても検討されはじめたが、さらに適地があれば八カ所程度建設される構想がある。

また、草地畜産開発の拠点となる草地畜産開発センターを建設するため、現在、阿蘇町において適地を調査中であるが、このセンターに草地畜産経営研修所建設の計画も同時に具体的検討が進みつつある。さらに草地畜産試験場や凍結精液センター、公共育成牧場等を建設誘致のための関係者の協議が進められつつある。

農地関係では、矢部地域総合開拓パイロット事業が国営事業として採択され、本年度から調査が実施されることになった。本事業は総事業費七〇億円で昭和四十八年度に着工され、昭和五十四年に完工の予定であり、完工のあかつきには矢部町、清和村におおむね二、五〇〇ヘクタールの農地が造成される見込みである。さらに、県営高森地区開拓パイロット事業が本年度から着工される運びになり、これにより高森町におおむね一〇〇ヘクタールの農地が造成されることになる。

県は前述したとおり、四十三年度、地

### 動き出した高原開発

元と一体となって高原地帯農業開発本部を推進組織として、結成するとともに、さらに行政組織として、高原地帯農業開発室を設置し、高原開発に本格的に取組む体制を整えた。これに呼応し、国は県の要望をうけ、国家的要請のもとに広域未開発地域総合調査費を昭和四十四年度計上し、阿蘇久住飯田地域総合開発調査事務所を熊本市に開所し、またこれに高原地帯の開発と本格的に取り組み

制をしいたのである。本調査事務所は、熊本、大分両県にまたがる九州の中部高原の阿蘇、久住、飯田地域を対象に高原開発の事業化をめどに本年度から基礎調査を実施し、耕、草、林、地等の土地利用計画を明確にし、高原開発の基本方向を示すマスタープランを策定する。今後は、これにもとづき各種開発事業が推進されることになるが、すでに一部先発事業がすべり出している。

まず、畜産開発関係では、開発の一手として、西原地区公共育成牧場設置の基礎調査を昨年から行なっていたが、県の強い要望と地元の入入れ体制の整備により、本来二年間の基礎調査を要する本事業を、異例のスピード着工で本年の十月から工事を開始し昭和四十六年度に完了する予定である。この牧場は、西原村高畑山のふもとに総事業費約四億円で建設するがその規模は敷地五〇〇ヘクタール、収容頭数一、一〇〇頭となり、日本一大きい乳用牛及び肉用牛の公共育成牧場となるはずである。このような牧場の建設計画が蘇陽町においても検討されはじめたが、さらに適地があれば八カ所程度建設される構想がある。

また、草地畜産開発の拠点となる草地畜産開発センターを建設するため、現在、阿蘇町において適地を調査中であるが、このセンターに草地畜産経営研修所建設の計画も同時に具体的検討が進みつつある。さらに草地畜産試験場や凍結精液センター、公共育成牧場等を建設誘致のための関係者の協議が進められつつある。

農地関係では、矢部地域総合開拓パイロット事業が国営事業として採択され、本年度から調査が実施されることになった。本事業は総事業費七〇億円で昭和四十八年度に着工され、昭和五十四年に完工の予定であり、完工のあかつきには矢部町、清和村におおむね二、五〇〇ヘクタールの農地が造成される見込みである。さらに、県営高森地区開拓パイロット事業が本年度から着工される運びになり、これにより高森町におおむね一〇〇ヘクタールの農地が造成されることになる。

市町村構想集計

区分	現在(40年)	将来(60年)	増減(60/40)	
地域の総世帯数	45,507戸	41,341戸	0.91	
地域の総人口	207,823人	181,634人	0.87	
農	農家戸数			
	専業農家	10,360戸	8,888戸	0.86
	兼業農家	14,147戸	7,329戸	0.52
計	24,507戸	16,217戸	0.66	
業	農業就業者数	60,381人	37,988人	0.63
	一戸当粗生産高	649,200円	3,737,200円	5.76
	一人当粗生産高	263,500円	1,595,400円	6.05

### 投資規模と開発効果

このような開発を進めるためには、昭和六〇年までに、総額二、〇四九億円の投資額が見込まれる。このうち農業関係七六六億円(畜産関係二七五億円を含む)、道路関係五六七億円、観光関係三二億三千万円、水資源一八七億円、林業一八億三千万円、防災七三億円となっているが、これを単年度投資額でみると総額で二二八億円、うち農業関係五〇億円となる。本地域の関係一八市町村の昭和四二年度の

予算規模は約五三億円でうち農林水産業費は約一〇億円にすぎないことから、いかに開発に膨大な資金を要するかご理解いただけると思う。このような開発の効果は、農林関係で総額六〇六億円見込まれる。このうち農業関係は約五二〇億円であるが、とりわけ、大家畜畜産開発効果がある。現況の二二億三千万円が、二四〇億円となり、二倍の伸び率で、うち乳用牛関係八七億円、肉用牛七八億円が見込まれる。これらの開発効果のほか、平坦地域の乳用牛或は肉用牛の育成、肥育素牛の造成や、平坦地域への牧草の供給等といった平坦地域の畜産振興に果す役割もきわめて大きいことを見逃してはならない。

これらの開発構想は、市町村の要望を積みあげたものであり、市町村間の考え方の違いや、広域的な考え方について調整を行なったけれども、まだ調整を要する点が残されており、本年度さらにこの構想を練り上げる過程にあるので、従って本構想は中間構想的なものであり最終的なものではない。あえて数字をあげて構想を説明したのは、構想に具体性をもたすためであり、ひとつのメドとしてご理解をいただきたい。

